平成 27 年度　経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組

本学では、経営協議会において法定審議事項とは別に討議事項を設け、経営者等外部委員の幅広い経験・視点からの助言をいただき、大学運営の改善等に役立てている。

平成 27 年度においても一例であるが以下のとおり様々な助言等をいただき、改善に役立てている。

平成 27 年度第３回経営協議会（平成 27 年 11 月 16 日（月）開催）

Ⅳ 討議事項

１ 第３期中期目標・中期計画（素案）について

※平成 27 年度第３回経営協議会議事要録参照

【大学運営・大学改善の方向に関する意見】

○　本素案中には、新しくなった図書館の利活用、図書館からの学生・地域への発信についての文言が全くないので、それらに関する実践例や目標なども入れるべきではないか。

（第３回経営協議会を開催するにあたって事前にいただいたご意見より）

【本学の対応】

・　当意見を踏まえて、「第 3 期　国立大学法人茨城大学中期目標・中期計画」P.16 の『（３）学生への支援に関する目標を達成するための措置』における②－23【学習環境整備】及び P.40 の『２　情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置』における①－67【情報の公開、広報機能強化】の計画内容及び指標に、平成 26 年度にリニューアルされ、新しくなった図書館に関する内容を追記した。

（参考：茨城大学 HP より）

○第３期（平成 28 年度～平成 33 年度）国立大学法人茨城大学中期目標・中期計画一覧表

http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/resume/plan/

平成 27 年度第４回経営協議会（平成 28 年 1 月 18 日（月）開催）

Ⅳ 討議事項

１　茨城大学の教育改革について

※平成 27 年度第４回経営協議会議事要録参照

【大学運営・大学改善の方向に関する意見】

○　茨城学について、スタートしてから約 10 カ月が経過するので、3 月には実施状況などを検証して更に活かしていただきたい。

○　教育改革について、入試の制度，カリキュラム、卒業要件にいたるまで網羅されており、非常にすばらしい教育改革が実現されると思われる。入試に関しては、バランスの取れた学力を有している学生を入学させる事も重要であり、また、入試の一つの方法として、例えば、科学の甲子園で優秀な成績を修めたような、一芸に秀でている学生を入学させ、更に伸ばすような事も非常に大事と思われる。

【本学の対応】

・　平成 27 年度からスタートした「茨城学」については、議事録にもあるとおり授業アンケートの分析・検証等を行い、授業の改善を図っている。また、「平成 27 年度茨城大学 COC 事業報告書」を作成し活動状況をまとめるとともに、学生の意見等も掲載している。それらの意見等を踏まえ、課題や今後の展望などもまとめ、PDCA サイクルを回し、授業の継続的な改善を図っていく。

・　入試制度の改革等については、今後様々な議論を行うことになるが、入学者選抜方法の改善し、高大接続改革の推進を図るために、それらに対応する組織として「アドミッションセンター」を平成 28 年４月に設置することを平成 27 年度に決定した。この組織を中心に、入試制度の改革を行い、多様な学生を獲得し、主体的思考力を持った多様性のある人材を輩出していく。

平成 27 年度第５回経営協議会（平成 28 年３月 14 日（月）開催）

Ⅳ 討議事項

１ 経営協議会の役割・在り方について

※平成 27 年度第５回経営協議会議事要録参照

【大学運営・大学改善の方向に関する意見】

○　本学主催のパートナー企業交流会に参加したが、懇親会も含めて非常に有意義であった。この経営協議会でも年に１～２回程度でよいので、懇親会という交流も必要かと思われるので出来れば開催していただきたい。

【本学の対応】

・　経営協議会の学外委員との懇談開催のご意見を踏まえ、平成 28 年度第１回経営協議会終了後に懇談会を開催した。会議とはまた違った雰囲気で交流が図られ、様々な意見等をいただくことができた。

・　本学では地域中堅企業とのパートナー関係構築を図り、また企業が求める人材像、大学への期待を聴取し、大学運営、大学改革に反映させることを目的に、平成 26、27 年度に地域中堅企業を中心に訪問調査を実施した。また、平成 28 年３月には企業訪問の総括として、訪問先企業、大学教職員、学生が一堂に会し、様々な立場から意見を交換する「パートナー企業交流会」を開催した。この交流会は、平成 28 年度に向け、新たに「茨城大学パートナーズフォーラム（仮称）」へ発展させ、持続的に活動を進めていく予定である。